



茶話〜タイムズ

Vol.11

2023年12月
発行



発行元：奈良市地球温暖化対策地域協議会 (NEW)

「人新世」を知っていますか？

「人新世」は地質学用語で人類が地球環境に大きな影響を与え始めた現代を含む区分の名称です。

地質学の時代区分は、大きいものから「代」・「紀」・「世」に分類されています。現代は「新生代」の「第四紀」で、最終氷河期が終わった1万1700年前から続く「完新世」に当たります。そして「人新世」はそれに続く年代区分として設置が検討されています。

人新世の始まりは、わずか70年ほど前の1950年代からとされています。特徴は人類の活動が原因とされる気候変動、生物多様性の喪失、人口の増大、化石燃料の燃焼や核実験による堆積物の変化があります。そして、この地層からは、人工物としてコンクリートやプルトニウムとともにマイクロプラスチックが発見されています。

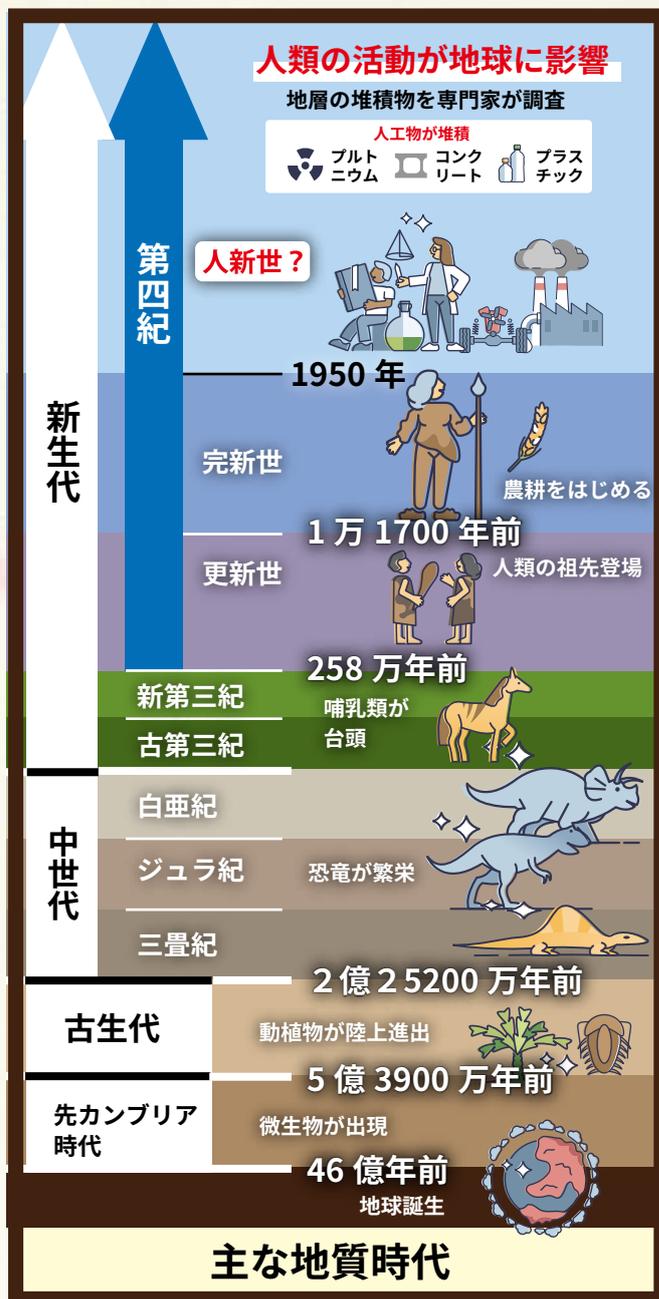
人新世とプラスチック

人新世の始まりとともに、プラスチックが普及し始め、現在の便利で安全な生活には、プラスチックが欠かせないものとなっています。

昭和30年代(1950年代)頃は、買物かごなどをもって、お菓子や乾物・精肉などを量り売りで買っていました。レジ袋もまだ普及していませんでした。



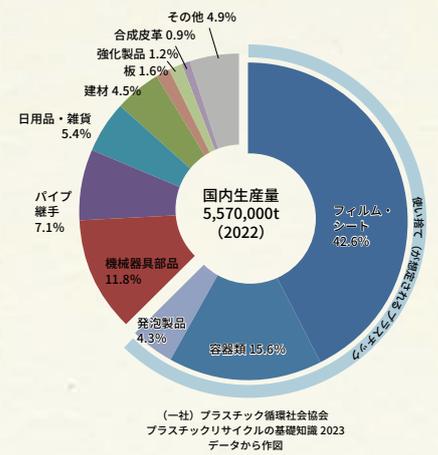
1970年以降スーパーマーケットやコンビニエンスストアが増加し、セルフ販売が広まりレジ袋とプラスチックのパック商品や食品トレーでの販売へと変わりました。また、1980年代には、ペットボトル飲料が普及しました。



プラスチックは、その特性から医療や食品はじめ電機製品・自動車などの工業製品まで、なくてはならないものとなっています。その反面、国内で生産されるプラスチック製品の半分以上は、使い捨てされていると考えられています。

廃棄されたプラスチックや焼却ごみなどが人新世の地層の特徴の一つになると考えられます。また、これらのプラスチックごみの増加により、環境への影響が未来にかかわる大きな問題となっています。

さまざまなプラスチック製品



地球でプラスチックがはびこっている？

プラスチックごみは、容器包装など短期間で捨てられている製品で占められています。また、OECD(経済開発協力機構)によると、2019年には2000年の2.3倍3億5300万トンのプラスチックごみが発生したと推定されています。そのうち、毎年500万から1200万トンと推定されるプラスチックごみが海に流れている状況が続くと、2050年には海の魚の量をプラスチックごみが上回ると危惧されています。

屋外に放置されたプラスチックごみが雨や風で川に流されて海へ



佐保川/平端付近の散乱ごみ



沖縄県竹富町黒島/海岸に流れ着いたごみ

①海洋の動物への影響

海鳥の90%、ウミガメの52%、クジラ・イルカの56%が、エサと間違えてプラスチックを食べていると推計されています。

②マイクロプラスチックの発生

海中でのプラスチックが劣化し砕け次第に小さくなり、5ミリ以下のものはマイクロプラスチックと呼ばれています。大きさが動物プランクトンと同じ大きさのため魚はエサと間違えて食べているようです。

③陸上動物への影響

モンゴルでは羊や牛が食べて衰弱死することが報告されています。奈良公園の鹿の胃からも3.2kgものポリ袋とみられているものが見つっています。



シカの胃の中から見つかった消化できないプラスチックごみの塊
一般財団法人奈良の鹿愛護会提供

どうしてもプラスチックを使うなら

石油から作られるプラスチックの有効利用は地球温暖化防止にもつながります。この大切な資源を無駄にしないように、3Rを心がけていきましょう。



まずは、毎日のお買物からのヒントです。また、プラスチック製品は、よりエコなプラスチックを選ぶことも必要です。

えらんで
エコなプラスチック製品を
えらぼう

減らして
使い捨てプラスチックの
ごみを減らそう

リサイクル
プラスチック製品は
分別してリサイクルに協力しよう

環境省広報 エコジジ【特集】プラスチックと、どうつきあう? より

エコなプラスチック製品を選ぼう



リサイクルプラスチックを使用した製品

ばら売りの
野菜



マイバッグ
レジ袋の削減



木製スプーンや
紙製ストロー



詰め替え用洗剤で、
ボトルの再利用



ペットボトル飲料
ラベル小さくなり、
ラベルレスへ

使い捨てプラスチックの ゴミを減らそう



ステンレスボトルで
ペットボトル飲料の
利用削減

2023年5月 KOHYO JR 奈良店にて

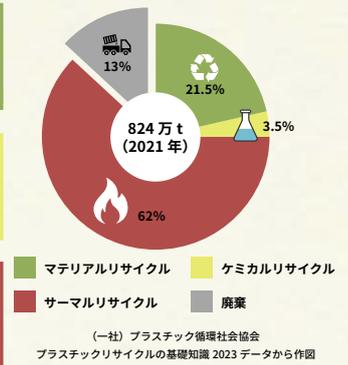
プラスチックごみは、リサイクルすればいいの？

リサイクルには、大きく3つの種類があります。回収したのから新しいものを作り出す「マテリアルリサイクル」、化学的に分解して活用する「ケミカルリサイクル」、そして廃棄物を焼却処分した際の熱を活用する「サーマルリサイクル」です。ペットボトルやトレーなどは単一素材のため、きれいな状態で分別回収されれば、マテリアルリサイクルとして新しいプラスチック製品に生まれ変わります。サーマルリサイクルは62%ですが、海外ではリサイクルではなく、「エネルギー回収」とされています。そして最後に残った約13%が利用されずに廃棄されています。

マテリアルリサイクル
 プラスチックを溶かしてもう一度原料として使う

ケミカルリサイクル
 科学的に分解して化学工場や製鉄所で原料として再利用する

サーマルリサイクル
 燃やすなどして熱回収し、エネルギーとして利用する。



リサイクルより、使わないのがかしこい選択

プラスチックごみが急増したのは、使い捨てプラスチック容器包装の増加が大きな原因となっています。プラスチックの使い捨ての生活を続ける限り、プラスチックごみは増え続けます。3Rに加えてRepair(リペア修理)とRefuse(リフューズ)「不要なものは買わない、もらわない、断る」ことが大切です。



イラスト：くにたち ECO プロジェクト (5R) の推進より

1 挨拶

2023年7月は史上最も暑い夏で工業化前(1850-1900)の平均と比べて1.5℃を超えたと推計されるそうです。世界中で異常な高温や森林火災、豪雨と洪水が起き、「今そこにある危機」となっています。また、今回のテーマの「プラスチック」を私たちは便利に使ってきましたが、すでに世界中に溢れ出し、海洋生物だけではなく生態系にまで影響を及ぼしているといえます。一刻も早くCO₂と同様にプラスチックも排出量を減らす必要があります。私たちが使ってきた物質が地層となり、未来の人類が「人新世の人類はいつたいたなんてことをしたのだ」と言われてしまうのかもしれない。それよりも、今の子どもたちが大人になるころ、どんな世界になってしまうのかとても心配しています。でもそんな無責任な大人であってはいけません。

今年度NEWは設立から15年を経過しました。改めて気を引き締め、より多くの市民のみなさんと「よい未来」になるように努めていきたいと思えます。

会長 清水順子



環境省では、2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするため、新しい国民運動「デコ活」を展開中です。

気候変動などについてもっと詳しく知りたい方、一緒に活動してみたい方は、ぜひ事務局へお問合せください。



発行 奈良市地球温暖化対策地域協議会 (NEW)

事務局 奈良市環境政策課内

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号

TEL: 0742-34-4591 FAX: 0742-36-5466 メール new-nara@city.nara.lg.jp

ウェブサイト <https://www.nara-eco-wa.net/>

